

☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・生活環境の
破壊を
許すな!



大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19

内本町松屋ビル10 370号

TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121

E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp

URL http://oskougai.com/

発行責任者 金谷 邦夫

年間購読料一部2,000円(送料共)

今 わたしたちは行動する 未来世代のために 160人の参加で 第42回公害環境デー開催

1月25日、160人の参加のもと第42回公害環境デー府民集会を開催しました。午前中は、二つの分科会「食をめぐるあれこれ」「環境汚染から見た原発」、一つのワークショップ「大気汚染の“今”とこれから」を開催。午後の全体会では基調報告、特別報告、福井の原発についての報告・訴え、5つの分野からたたかいの報告、まとめを行い、府民へのアピールを確認しました。集会には、中国から来阪中の中国の環境NGOの方々6名も出席され、活動の一端を紹介していただきました。(2、4面に関連記事)



分野別報告・訴えの公害患者会の皆さん

全体会・特別報告

「IPCC報告とCOP19、日本の課題」

(要旨)

弁護士 早川 光俊 (CASA 専務理事)

◎ 地球温暖化の問題点とは？

温暖化すれば、暖かくなって良いのでは？ 寒いところでも作物ができて良いのでは？ との意見もある。地球を覆っている大気の中に温室効果ガス、地球を温めてくれる効果のあるガス(CO₂=二酸化炭素やメタンなど)が含まれている。それで温められて地球の平均気温14℃になっている。温室効果ガスがなければ地球の温度はマイナス19℃になると言われている。過去一万年くらいから、平均14℃で安定している。

主にはCO₂が増えたこと(産業革命以降に異常なほどに急激に増加)だが、徐々に温室効果ガスが増えたことで、平均気温14℃から上がっていった。そのことで地球の生態系、私たちの生活、私たちの子孫・将来世代にどのような影響を与えるか？ これが温暖化の問題。

◎ IPCCとは？ 温暖化の原因は？

1988年、世界の科学者 2000人以上が、温暖化問題について観測データや研究をまとめて報告書をつくろうということで設立された。設立以降それぞれに分かれている作業部会から順次、報告書が公表されており、今年10月には第5次統合報告書(各作業部会をまとめたもの)が発表される予定。

既に発表されている作業部会1の評価報告書では、科学者の立場から断定してしまうことは極めて稀だが、「地球の温暖化は疑う余地がない」としている。例えば、氷河が減少し、北

極の氷の面積が減少している、表にすると平均気温やCO₂濃度がほぼ一直線で上昇している(産業革命以降+0.85℃)などの観測データがあるからだ。報告書では「20世紀以降に観測された温暖化の主要因が『人間の活動』にある」としている。

又、将来 2081年～ 2100年に、世界平均地上気温は 0.3～4.8℃上昇、海水面は26～82cm上昇すると予測している。

◎ 平均気温の上昇は2℃が限度

CO₂が増えることで海水が酸性化されアルカリ濃度が低下する。このことがサンゴの死滅にみられるように海の生態系を破壊していく。

気温上昇の許容範囲は、「産業革命以前(1985年頃以前)から2℃以内の上昇を抑えなければ、回復不可能な環境破壊により人類の健全な生存が脅かされる」としている。「2℃の上昇が限度(既に 0.85℃上昇済み)」は世界の共通の認識で、あらゆる世界会議で基準になっている。CO₂累積排出量の調査では、このままで推移すると2050年より前に平均気温2℃上昇となる排出量に達してしまうと予想している。

◎ 打開のために

各国で打開のために交渉や会議が始まっている。しかし日本では、自民党政府が、世界の動きに逆行して、CO₂の削減目標を下げるということでもないことをした。その後発表したエネルギー基本計画では、原発を重要な電力供給源と位置づけて再稼働をしようとしている。とんでもないことだ。

自然エネルギーへの転換、省エネ、CO₂の削減もしながら、国内生産も増やしていくことは可能だ。「原発はゼロ。再生可能エネルギーへ」は世界の趨勢。是非、皆さんとともに「温暖化防止、原発をなくす」方向でたかっけていきたい。